

曲げ木の「自転車」

友達のように
親しみやすく

ぬくもりのある木、親しみやすい曲線、笑顔のようにユーモラスなハンドル中央部のデザイン。「曲げ木 木製二輪玩具」は、初めて自転車に触れる子どもたちを友達のように温かく迎えてくれる。木製工芸品の製造販売を手掛ける「ワークス・ギルド・ジャパン」(秋田市将軍野南)が、北欧の木製自転車をヒントに開発、販売している。

全長約85センチ、重さ約4.2キロ。笑った口のように見えるハンドル部分の穴は、自転車に乗った子どもを親が支えるための持ち手。対象年齢が2歳から5歳ぐらいまででペダルはない。子どもが親の手を借り、遊びながらバランス感覚を養える。いすは5段階の上下調整が可能。

2007年12月、同社が県内の委託製造会社に依頼し、5回の試作を重ねて完成させ、7月に発売した。「子どもが成長し

ても、インテリアとして末永くそばに置いてもらえたらうれしい」と同社デザイン担当の大野英憲さん(38)。デザインや強度にこだわり、ハンドルやフレームなど随所に曲げ木技術を取り入れた。

前輪と後輪をつなぐメインフレームは、試作段階では平面的だったが、後輪を包み込むような立体的な形にした。壊れたり汚れたりしても部品は交換できる。長く使えるような配慮であ

ワークス・ギルド・ジャパン (秋田市)



「本場に通用することが分かり、うれしかった」と語るデザイン担当の大野さん

試作重ね、随所に技術

作業は、厚さ1〜1.5センチにスライスしたヨーロッパ産のブナの板を特殊なもので張り合わせた「積層合板」を作るところから始まる。使われる板はメインフレームが9枚、フロントフレームが13枚。張り合わせた板は100度以上の高温に熱した鉄の型枠でプレスしながら曲げていく。のりが完全に溶けて板同士が密着するまで、1枚の板でおおよそ10分。長くプレスし過ぎて外側が焼けてしまわないよう注意し、泥よけやハンドルに曲線を生み出していく。

積層合板を部品ごとに裁断した後、ウレタン塗装と研磨を3回繰り返す。塗膜に空気が入ったり、汚れが付着したりすると、次の塗装がはがれやすくなるので慎重な作業が必要。塗膜によ



ペダルのない「木製二輪玩具」。子どもが成長したら思い出とともにインテリアとして飾ってもいい

って木の劣化を防止できる。

同社の木製二輪玩具は、ドイツ・バーデン・ヴュルテンベルク州で9月2日から4日間の日程で行われたヨーロッパ最大の自転車見本市「ユーロバイク2009」に出品された。「研磨を重ね、扱いやすさにこだわった曲線が『beautiful』と評価され、とてもうれしかった。何より木製自転車の本場である北欧と肩を並べる製品と認められたことで自信がついた」と大野さん。現在は木製二輪玩具しか扱っていないが、三輪車など新製品の商品化も視野に入れている。

木製二輪玩具は3万8千円、木製スタンドは2万5千円(いずれも税込み)。問い合わせは同社018・880・5145